



ほかの考えをノートに書いて考える場面



自分の考えをグループで説明している場面



全国学力・学習状況調査の結果

文部科学省が行う全国学力・学習状況調査が4月22日に実施され、小学6年生と中学3年生が参加しました。

表1

学 年	教 科	平均正答率 (%)		
		庄原市	広島県	全国
小学6年生	国語A	75.3	75.9	72.9
	国語B	59.5	58.3	55.5
	算数A	82.3	80.7	78.1
	算数B	58.4	60.1	58.2
中学3年生	国語A	83.3	80.1	79.4
	国語B	55.0	50.9	51.0
	数学A	71.2	68.4	67.4
	数学B	64.2	60.5	59.8

※Aは基礎的・基本的な内容、Bは知識・技能を活用する内容
※数値は平均正答率(%)

全国学力・学習状況調査では、市の正答率が全教科で全国平均を上回っています。しかしながら、活用する力を必要とするB問題の平均正答率が、A問題に比べて低いことが例年の課題です。表1から、習得した基礎的・基本的な内容を活用して考えたり、表現したりすることが十分ではないことが分かります。小学校算数Bに次のような設問があります。

9ℓのスープがあります。玉じゃくし1杯を1人分として40人に分け始めました。すると、分ける前と10人に分けた後では、2ℓ減っていました。この分け方で残りの30人にスー

プを分けることができますか。できませんか。そのわけを言葉と数を使って書きましょう。

市の正答率は28.9%(県33.8%、全国30.6%)でした。40人全員分に必要なスプーンの量や、残りの30人に必要な量が明記されていなかったり、最初のスプーンの量が書かれていなかったりする誤答が多くありました。比較する対象を明確にして説明することや、比較する対象が不明確な説明をもとに、説明として何が不足しているのかを考え、足りない表現を付け加えたり、誤った表現を修正したりする活動を取り入れることが必要だと考えられます。

小・中学校の学力は概ね定着～基礎・基本から活用へ～

教育指導課指導係 ☎ 0824-73-1184

本年度実施した、全国学力・学習状況調査および広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果は次のとおりでした。市教育委員会は、これらの調査で明らかになった児童生徒の課題を分析し、児童生徒一人一人の学力向上を目指す取り組みを進めていきます。

※「アウトメディア」の取り組みとは…家庭での時間の過ごし方やメディアとの接触時間を改善するため、子どもたちが日常生活の中で必要なメディアを選択することができる力を身に付けることをねらいにした取り組み

「基礎・基本」定着状況調査の結果

広島県教育委員会が行う、広島県「基礎・基本」定着状況調査が6月10日に実施され、小学5年生と中学2年生が参加しました。

表2

学 年	教 科	平均通過率 (%)		
		庄原市	広島県	
小学5年生	国語	教科全体	74.4	71.8
		タイプI	76.5	73.9
		タイプII	64.9	62.2
	算数	教科全体	80.2	78.0
		タイプI	82.6	79.7
		タイプII	68.5	69.8
理科	教科全体	71.9	70.6	
	タイプI	74.9	73.9	
	タイプII	65.5	63.5	

学 年	教 科	平均通過率 (%)		
		庄原市	広島県	
中学2年生	国語	教科全体	76.7	73.7
		タイプI	75.3	73.8
		タイプII	82.4	73.5
	数学	教科全体	74.2	70.2
		タイプI	77.9	73.9
		タイプII	57.0	52.7
理科	教科全体	66.8	55.0	
	タイプI	72.3	59.8	
	タイプII	58.7	47.9	
英語	教科全体	78.7	68.2	
	タイプI	81.8	72.5	
	タイプII	67.1	51.8	

広島県「基礎・基本」定着状況調査では、教科全体の平均通過率が県平均通過率を上回っています。また、基礎的・基本的な学習内容(タイプI)は、概ね定着していると考えられますが、全国学力・学習状況調査と同様に、知識・技能を活用する力を必要とするタイプIIの通過率が、タイプIに比べて低くなっています。

タイプIIの問題が解ける力を付けるためには、タイプIのような基礎的・基本的な内容の定着が重要です。「基礎・基本」定着状況調査で最も通過率の低かった設問は、小学校国語タイプIにある中心となる語や文の把握を問う問題

で、市の通過率は22.3%(県25.2%)でした。この問題は、説明文のまとめの文章が穴埋めになっているもので、2文字と5文字の語句を本文中から抜き出すものですが、ただ単に同じ文字数の語句を抜き出した誤答が多くあり、何を言いたいのかわからなかったり、自分の考えをもったりするなど、目的に応じた効果的な読み方ができるように指導が必要だと考えられます。

※タイプIは基礎的・基本的な内容、タイプIIは知識・技能を活用する内容
※数値は平均通過率(%)

広島県「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査における調査結果(抜粋)

「よくあてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に回答している割合(%) 表3

設 問	小学5年生		中学2年生	
	庄原市	広島県	庄原市	広島県
自分で勉強の計画を立てている	72.5	64.4	54.0	52.6
学校の授業の予習をするようにしている	63.8	55.7	43.5	38.1
学校の授業の復習をするようにしている	77.7	63.8	60.5	55.3
家庭で1日に1時間以上勉強している	平日	64.5	54.0	58.0
	休日	42.9	37.9	65.5
地域や子ども会などの行事に参加している	83.3	67.3	64.1	46.8
自分の住んでいる地域が好きです	92.0	87.6	77.2	77.9
テレビやゲームを1日に3時間以上見ている	平日	20.6	26.5	31.2
	休日	44.3	40.2	67.4
1カ月に6冊以上読書をしている	49.8	39.7	12.3	13.0
家庭で1週間に3時間以上読書をしている	13.9	12.3	6.9	8.1

自分で勉強の計画を立てたり、家庭で1日1時間以上勉強したりしている児童生徒の割合は、全て県平均を上回っており、家庭学習習慣が定着してきたことが分かります。

テレビやゲームを1日に3時間以上見る児童生徒の割合は、小学5年生の平日で県平均を下回りましたが、そのほか県平均を超えています。特に、休日にテレビやゲームを3時間以上見る児童生徒の割合は上昇しており、引き続き課題として取り組む必要があります。

現在、市内全ての小・中学校で、期間を決めて「アウトメディア※」に取り組んでいます。各家庭でも、子どもと一緒に「アウトメディア」に取り組む、特に休日に家族でのふれあいや読書などの時間を増やすことが大切です。

確かな学力の向上を目指して

学力向上検証改善委員会
会長 古本宗久



庄原市では、各種学力調査の結果などをもとに児童生徒の学力の定着状況を検証し、授業改善を図ることを目指して、本年度から従来の学力向上検討委員会を学力向上検証改善委員会に改めました。本委員会の研修会では、各学校の特色ある取り組みを交流し、協議することを通して、自分の学校の取り組みを、より質の高いものに改善していきます。

児童生徒の学力の向上を図るためには、教職員の成長が不可欠です。各学校では、校内での研修や他校の研究会に参加するなど、授業改善に向けて日々研さんを深めています。

また、児童生徒が学校で学んだことを家庭での実生活に生かしたり、地域の活動の中で活用したりすることは学力の向上につながる大切な取り組みです。引き続き、保護者・地域の皆さまのご支援・ご協力をお願いします。